



i+hubの導入により 使用率が低かった会議室の利用状況が好転



ソリューション・ラボ・ジャパン株式会社

2台のi+hubを導入された、ソリューション・ラボ・ジャパン株式会社。

導入の経緯や今後の展望について、本社オフィスに勤務する、管理部 宮田様にお話を伺いました。



管理部 宮田様

課題

» 会議室の利用に偏りがあり、特定の1部屋の使用率が低迷

本社オフィスに4部屋ある会議室のうち、3部屋は一体型のカメラマイクが使用できるワイヤレス接続のモニターが設置されています。ただ、その他の1部屋は古いモニターの使用を継続していました。その結果、会議室の利用がワイヤレス接続のモニターが設置されている3部屋に集中してしまい、数が限られているにもかかわらず、会議室の利用に偏りが生じていました。

解決策 使用率が低迷している会議室へのi+hubの導入

新しい物が好きな社員が多いこともあり、i+hubを導入した会議室を使用する社員が急増しました。また、i+hubはPCにドングルを差してボタンを押すだけでモニターに接続できるので、操作が直感的で分かりやすいです。他の3部屋の場合、モニターに接続の際に、PC側でカメラやマイクなどの設定を呼び出す必要があるのですが、i+hubを導入した会議室では、速やかに会議が始められるようになりました。使用率を高める工夫として、2種類のドングルの使用方法がわかりやすいように簡易操作ガイドを印刷して近くに置いています。



簡易操作ガイドを置いています

大画面の活用 少人数の打ち合わせが発生する

4階のエンジニアルームにも、i+hubを1台導入しました。このエンジニアルームは基本的には個人で作業するスペースですので、小さなディスプレイを置いていました。ただ、実際には少人数での打ち合わせが行われることがあるため、ディスプレイが大きなi+hubに切り替えることで、視認性の向上と打ち合わせの円滑化が期待されます。

i+hubへの期待 ゲームの種類の増加

アイスブレイクアプリは、もっとゲームの種類が増えるといいと思います。ちなみに、会議の参加者全員みんなでゲームをプレイすることがあるのですが、一人だけ点数が低い人がいたときは、少し気まずい空気が流れたりしますね(笑)。

今後の展望 双方向制御による座席管理システムの導入を目指して

弊社では固定席とフリーアドレスを併用しており、他のオフィス勤務の社員が本社に来た際に、利用可能な座席が分かりにくいという課題があります。そこで、ブラウザから利用できる座席管理システムの導入を検討しているのですが、エンジニアルームのi+hubの使用を視野に入れています。

i+hubは、PCからの画面投影でも直感的に操作できるので、座席管理システムの画面を投影すれば、誰がどこに着席しているのかが視覚的に把握しやすくなるのではないかと考えています。

ソリューション・ラボ・ジャパン株式会社

【業種】システム開発 【利用シーン】社内外会議

【企業概要】1992年の設立以降、IBM i (AS/400) 上で稼働するアプリケーションの導入・開発を主として、ソリューションの提案から保守・運用までをワンストップで提供する。



株式会社イグアズ

ビジネス開発本部 戦略システム開発部



ihub@i-guazu.co.jp



<https://www.i-guazu.co.jp/lp/ihub>